

# 報告書抄録

ふりがな	しせきむきばんだいせきまつおがしらふんきゅうぼぐんはつちようさほうこくしよ							
書名	史跡妻木晩田遺跡松尾頭墳丘墓群発掘調査報告書							
副書名	- 第33・34次調査、墳丘墓群総括報告 -							
シリーズ名	史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書							
シリーズ番号	第VI集							
編著者名	森藤徳子、高尾浩司							
編集機関	鳥取県立むきばんだ史跡公園							
所在地	〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4 電話 (0859) 37-4000							
発行機関	鳥取県立むきばんだ史跡公園							
発行年月日	2020 (令和2) 年3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
むきばんだいせき 妻木晩田遺跡 まつおがしらちく (松尾頭地区 まつおがしらふんきゅう 松尾頭墳丘 ぼぐん 墓群)	とっとりけんよなごし 鳥取県米子市 よどえちようふくおか 淀江町福岡 あぎこまいししみず 字小真石清水	31202	1-333 (大山町)	35°45'73"	133°45'73"	2017.8 ~ 2018.11	1,238㎡	内容確認
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物、特記事項			
妻木晩田遺跡 (松尾頭墳丘墓 群)	墳丘墓	弥生時代終末期		墳丘墓(3基)	弥生土器、鉄製品			
	その他	弥生時代後期以前		不明(5基) 土坑(1基) 溝(1条)	弥生土器、石器			
		古墳時代~近代		塹壕	須恵器			
要約	史跡妻木晩田遺跡は、標高約100mの丘陵上に広がる、弥生時代後期を中心とした大規模な集落遺跡である。松尾頭墳丘墓群は、第1次調査の成果から弥生時代終末期後半の墓域と考えられてきた。今回、「墳墓域の実態解明」を課題として発掘調査を行った結果、新たに終末期前半築造と考えられる松尾頭3号墓・同4号墓・同5号墓を検出した。集落変動期の有力者層の墓域である松尾頭墳丘墓群は、終末期を通して造営された方形周溝墓の形態をとる墳丘墓群であることが判明した。妻木晩田遺跡では、これまで終末期前半段階の墳丘墓は第1次調査のトレンチ調査で確認された仙谷4号墓のみで、墳丘墓形態や構造、さらには墳墓域の様相が不明であった。松尾頭10区を調査したことにより、妻木晩田遺跡の集落が拡大し始める後期前葉から終焉を迎える古墳時代前期前葉までの墳丘墓群の動向が明らかとなった。首長墓の動態及び墳墓域の変遷を把握できたことは、妻木晩田遺跡の集落像を解明するうえで非常に重要な成果である。							

---

史跡妻木晩田遺跡発掘調査報告書第Ⅵ集

**史跡妻木晩田遺跡松尾頭墳丘墓群発掘調査報告書**

**－第33・34次発掘調査、墳丘墓群総括報告－**

発行日 2020年（令和2年）3月24日

編集 鳥取県立むきばんだ史跡公園

〒689-3324 鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4

電話 (0859) 37-4000

発行 鳥取県立むきばんだ史跡公園

印刷 米子プリント社

この冊子は420部作成し、1部あたり2,800円です。

---